

くわの ひろふみ
教育委員 **桑野 裕文**さん



私は幼いころ、年のはじめに「だざいふてんまんぐう」にお参りに行っていました。漢字の読み書きができるようになると、「大宰府」と「太宰府」を使い分けるようになりました。言葉の背景の違いを読み取ることの大切さを教えてくれたのが、「だざいふ」との出会いでした。

最近、ことわざや四字熟語を言ったり聞いたりする機会が減少し、日本語らしさが薄くなったといわれます。私自身、「初心忘るべからず」などのことわざを使うと、年寄りじみて聞こえないかと使うことをためらうことがあります。

メールの普及により、私たち日本語の会話の機会は奪われています。コミュニケーション（話し聞く）は大切です。だざいふ市は歴史と文化の都市であり、国境を越え人の往来が進む観光都市でもあります。文化の違う世界中の人々と接する機会も多いです。言葉を大切にコミュニケーションを心がけていきたいものです。

特集

【表紙関連】

7月は同和問題啓発強調月間です
…………… 2~4

【表紙関連】

連載:手と手をつないで…………… 5

6月議会市長提案理由説明…………… 10~11

国際交流の事業の紹介…………… 12

市からのお知らせ…………… 13~17

連載…………… 18~29

なんでも情報コーナー…………… 30~37

太宰府の文化財…………… 38

市政ニュース

団体からの寄附

企業版ふるさと納税として寄附をいただきました

日之出水道機器株式会社

日之出水道機器株式会社から企業版ふるさと納税として寄附をいただきました。

同社からは平成6年度より継続して多くの寄附をいただいています。これまで、外国語資料や辞典などの購入に活用し、市民図書館の「ヒノデ文庫」として2,200冊以上の図書を購入しました。

本年度もいただいた寄附金で図書の購入を予定しています。ぜひ、市民図書館「ヒノデ文庫」のコーナーを利用してください。



寄附金贈呈式の様子

三井住友ファイナンス&リース株式会社

三井住友ファイナンス&リース株式会社から昨年に引き続き「令和発祥の都太宰府『梅』プロジェクト」に賛同いただき、企業版ふるさと納税として寄附をいただきました。

同社は、古民家宿泊施設HOTEL CULTIA 太宰府の共同出資者として、本市の地方創生に貢献いただいています。

贈呈式の中で、寄附金を太宰府の梅のブランディングに役立ててほしいとの言葉がありました。本市の中核事業である梅プロジェクトの更なる発展のため大切に活用します。



寄附金贈呈式の様子

姉妹都市交流

韓国・扶餘郡の皆さんが太宰府市を訪問しました

本市と昨年、姉妹都市承継提携10周年を迎えた大韓民国・扶餘郡の朴郡守（首長）をはじめとする扶餘郡の皆さんが5月20日(土)~22日(月)、本市を訪問し、市内の史跡などを視察しました。

市役所で市職員による出迎えと歓迎セレモニーを行い、記念品の交換や、本年9月~10月に行われる百済の歴史を伝える文化祭「大百済典」への招待を受け、姉妹都市としての友好関係を改めて確認しました。



本市を訪問した朴郡守(中央左)と扶餘郡の皆さん(左から1・2人目)

国際交流・韓国

大百済典に行ってみませんか

だい く だら てん

太宰府市国際交流員 キムシンヒョン 金辛泓

5月20日~22日の間、姉妹都市である韓国の扶餘郡守をはじめ扶餘郡の皆さんが交流のため太宰府を訪問しました。テレビや新聞ですすでご覧になった人もいるかもしれませんね。扶餘郡の皆さんは太宰府にある大野城跡や水城跡など、百済とゆかりの深い遺跡を見学しました。

扶餘郡の皆さんは太宰府を訪問した後、熊本・大阪・奈良・明日香村にも訪問しました。このように扶餘郡の皆さんが日本の各都市を訪問した最大の理由は、扶餘で開かれる「百済文化祭」のプロモーションのためでした。



水城跡を視察する朴郡守

昨年の広報だざいふの本コラム10月号「百済文化祭」と12月号「百済文化祭に行ってきました!」を覚えていますか? 本年も百済文化祭が開催される予定です。第69回百済文化祭は本年9月23日(土)~10月9日(月)の17日間、「大百済、世界につながる」というテーマで開催されます。そして今回は通常の百済文化祭ではなく、なんと「大百済典」というタイトルで祭りが開かれる予定だそうです。



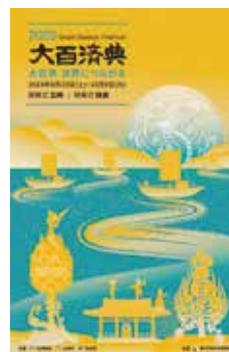
過去の百済文化祭の様子

2023年は百済にとって特別な年です。百済の首都を熊津から泗泚に遷都し、新たに百済の中興を図った26代王、聖王の即位1500年目でもあり、韓国の国宝第287号に指定された「百済金銅大香炉」発掘30周年を記念する年でもあります。こうした歴史的事実を記念するために、今回の百済文化祭は今までよりもっと大きな規模で開催される予定だそうです。その理由で、今回の百済文化祭は大百済典と名付けられたのです。

普段ならなかなか行けない扶餘ですが、訪問してみたいはいかがでしょうか?



観光名所の百済旧橋



令和発祥の都太宰府「梅」プロジェクト



梅の実収穫祭を開催しました

本年度も「梅」プロジェクトの始まりとなる梅の実収穫祭を5月17日(水)、大宰府政庁跡で福岡農業高等学校や連携企業の皆さんと行いました。

同校の梅研究班は、平成21年から授業の一環として市内で収穫した梅を使用し、製品開発を行っています。産学官の連携によるこの取り組みで、サイダーやポテトチップス、チョコレート、せんべい、漬けダレなど多くの製品が生まれました。

今後も定番製品に加え、令和の都だざいふの新たな地場みやげとなる製品開発が期待されます。本市が掲げる市内の至る所で梅を愛で、収穫し、グルメやスイーツが楽しめる「真の梅のまち」の実現に向けて取り組んでいきます。



梅の実収穫祭の参加者



梅の実を収穫する福岡農業高校の皆さん

蜂蜜を活用した特産品開発の実証実験をスタートしました

ニホンミツバチの都市養蜂に取り組むNPO法人博多ミツバチプロジェクトと連携し、史跡地で梅の花など百花から集めた蜂蜜を活用して新たな特産品を開発する社会実証実験をスタートしました。5月30日(火)、特別史跡大宰府跡蔵司地区で発表会を行いました。

史跡地の管理には多額の費用が掛かる中、史跡地の新たな可能性を見出すことで経済税収効果の向上を図り、保全につなげる好循環を目指します。

ミツバチたちがうまく巣を作り蜂蜜を生成するか、温かく見守ってください。



史跡地に設置した巣箱と関係者

コーシェリジャパン主催のパネルディスカッションに楠田市長が登壇

コーシェリジャパンによる本市の新たな特産品となるフレグランス製品「9KOS (ナインコース) シリーズ」の商品発表会が5月29日(月)に行われ、パネルディスカッションに楠田市長が登壇しました。

同製品は、太宰府市産梅を用いて作られた梅酒の製造後に残る「廃棄梅」から製作した環境にも優しいサステナブルな商品です。

商品を製造した株式会社コーシェリジャパン織井敬太郎氏、廃棄梅を提供した大賀酒造株式会社大賀喜一郎氏、原料の梅を提供した本市の楠田市長の3者で「香りによるアフターコロナの地域活性化」をテーマに意見交換を行いました。



意見交換する登壇者3人